

登録コード:MH312100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	物理療法基礎論【20M以降】 Electrophysical Agents Fundamentals			
担当教員	小宅 一彰 中村 慶佑・岡野 怜己			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/1年 後期 金曜・5 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 1 1 講義室 保健学科運動療法実習室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		物理療法として用いられる物理エネルギーの特性および物理刺激に対する生体反応を理解するとともに、安全かつ効果的に物理療法を実施する技術を獲得し、理学療法の治療において活用することができる。	
	MH25カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・理学			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		物理療法として用いられる物理エネルギーの特性および物理刺激に対する生体反応を理解するとともに、安全かつ効果的に物理療法を実施する技術を獲得し、理学療法の治療において活用することができる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		社会で派生する多様な課題に対して、理学療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探求心と、対象者の抱える課題に応じた安全で効果的な物理療法介入の実施に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業では、各種物理療法における物理学の特徴や物理法則、生理学の効果について、講義を通じて学習します。本授業は、1年次前期に学んだ「生理学」の発展科目に位置付けられます。また、2年次前期の「臨床物理療法」の前提科目となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第1回（10月2日） オリエンテーション/物理療法学の概要 （小宅） 第2回（10月9日） 温熱療法総論・表在温熱療法 （中村） 第3回（10月16日） 極超短波療法・超短波療法 （岡野） 第4回（10月23日） 光線療法 （岡野） 第5回（10月30日） 超音波療法 （岡野） 第6回（11月6日） 寒冷療法 （中村） 第7回（11月20日） 水治療法・前半の振り返りとグループワークの確認 （小宅） 第8回（11月27日） 【中間試験】(小宅) 第9回（12月4日） 【グループワーク：最新エビデンスの探求】(小宅) 第10回（12月11日） 電気刺激療法総論 （小宅） 第11回（12月18日） 物理療法による鎮痛メカニズム・TENS・IFCS （小宅） 第12回（12月25日） NMES・FES・PNS・MES （小宅） 第13回（1月8日） 牽引療法・振動刺激療法 （岡野） 第14回（1月15日） グループ発表準備 （岡野） 第15回（1月22日） 【グループ発表】(小宅) 【授業アンケートの実施】 第16回（1月29日） 【期末試験】(小宅)			
授業の進め方	物理療法の基礎となる物理的エネルギーの基礎、物理療法の分類、原理、生理学の効果、基本的操作、適応と禁忌について、テキスト、スライドを使用し、授業を進めます。授業資料は事前にeALPS上にアップロードします。授業内ではグループディスカッションや演習の時間を設けます。グループディスカッションではICTを活用するため、ノートパソコンもしくはタブレット端末、スマートフォンを持参してください。			
テキスト、教材、参考書	教科書：Crosslink理学療法学テキスト物理療法学（吉田英樹編：MEDICAL VIEW）			
成績評価の方法	中間試験(11月27日)、グループ発表(1月22日)、期末試験(1月29日)の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分は、中間試験30%、グループ発表40%、期末試験30%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。 中間試験と期末試験では、テキスト、スライド、過去の国家試験問題などをもとに物理療法に関する基本的な知識を確認します。グループ発表では、適切な文献を選択できているか、文献を正しく読めているか、分かりやすくプレゼンテーションができるかを評価します。			
成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解けるあるいは教科書に示されている基本的な知識を使って文献の内容を説明できれば「水準にある」、応用問題が解けるあるいは教科書に示されている応用的な知識を使って文献の内容を説明できれば「やや上にある」、やや難しい応用問題が解けるあるいは教科書以外にも最新のエビデンスを用いて文献の内容を説明できれば「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解けるあるいは最新のエビデンスに基づき自身の見解を提示しながら文献の内容を説明できれば「卓越している」と			

成績評価の基準	します。 「卓越している」：秀 「かなり上にある」：優 「やや上にある」：良 「水準にある」：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業の終わりに、次回までに調べてくるべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 授業のはじめに、前回の授業の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 また定期試験に向けて、計画的に学習を進めてください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	物理療法による生理学的効果や適応・禁忌に該当する病態を理解するためには生理学や病理学の知識が要求されます。事前に復習をしておきましょう。 質問への対応：小宅 一彰 k_oyake@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメールで希望日時についてご連絡ください） 保健学科南校舎4階 小宅研究室